



# 意地で掴んだ勝利!

## 駒澤大学 1 - 0 東京学芸 2003



【上】試合終了間際、森本からのクロスにディングシュートを決めた山崎、右サイドを駆け上がりサイド攻撃を活性化した (撮影・川崎篤彦)  
 【左奥】相手にプレスをかける椿原。前線からの速いプレスで相手のボールを奪い、再三前線へとボールを繋いだ。攻守共にチームに貢献  
 【左】シュートを放つ隅田。DFの裏へ裏へと絶妙なパスを出していた



2005年9月17日 慶應義塾大学下田サッカーグラウンド  
 インディペンデンスリーグ2005 (後期)  
**駒澤大学 1 - 0 東京学芸 2003**  
 【得点】()はアシスト  
 【駒】89分山崎(森本)  
 【メンバー】  
 GK 岡部 良行 (85分 山 口 一 平)  
 /DF 武 田 憲 明、浅 野 浩 一 (53分 森 本 勇 一)、奥 野 拓 也、鳥 井 勇 作  
 /MF 隅 田 翔 (81分 桐 原 崇 弘)、山 崎 良 介、加 藤 正 樹 (70分 安 田 弘 典)、椿 原 徹 也 /FW 田 村 貴 之 (58分 奥 村 英 樹)、宮 田 潤

### 最後まで正確に

「限界まで行けよ!」水原コーチが試合中選手に向かつて発した言葉だ。トップチームでの公式戦出場を目指す選手たちにとって、このIリーグの舞台はアピールをする場の一つ。限界まで全力で戦い抜くことが彼らのステータスアップに繋がる。

そして「限界まで」というフレーがこの日の勝利を呼んだ。圧倒的に駒大がゴールを叩くも88分までスコアは0-0。ロスタイム表示は5分。是が非でも勝利を挙げたい駒大は最後まで全力で攻撃を仕掛けゴールを上げた。左サイドを駆け上がった森本が相手を振り切りクロスを上げる。それをゴール前の山崎がヘディングシュート。「点が欲しかったので無我夢中だった」(森本)が言うように、CBの森本が前線まで上がり山崎の決勝弾をアシストしたのだ。

後半ロスタイムで1ゴールを上げ勝利した駒大であったが、試合内容を見ればもっと点が生まれてもおかしくなかった。相手に自由にボールを持たせることなく前線から徹しくプレスをかける。相手ボールを奪つと、裏のスペースへパスを出し、そこへ前線の2人が走り込む。または、サイドのスペースを使ってクロスを上げる。といった形で完全にチームの主導権を握っていたのだ。しかし、1ゴールに留まってしまうのは「攻めていたが、シュートとクロススの精度が悪かった」(椿原)ことが原因である。サイドのスペースに出されたパスを最後まで諦めずに必死に追いかけ、クロスを上げる。だが、このチャンスがゴールに結びつかないのだ。正確なクロスを上げゴールに結びつけることが本場の意味で最後までというところだろう。「苦しかった」(隅田)「もっとチャンスで決めていれば楽だった」(山崎)と、この試合の課題は選手たち自身が一番痛感している。

最後の最後で何とか勝利を挙げたが、場面場面での最後までというプレーはあと一步。「練習からやらないと試合では成果を出せない」と椿原は試合後語った。上を目指す彼らが日々の練習からレベルアップを遂げ、トップチームでの公式戦出場を果たす日が楽しみだ。